

## 黄疸に対する治療法：がんによる閉塞性黄疸に対する胆管ステント

### とは？

#### Q1. 胆管とは？

胆管とは肝臓で作られた胆汁を十二指腸に排出する管状の経路です。経路の途中で膵臓を經由しています。

#### Q2. 黄疸とは？

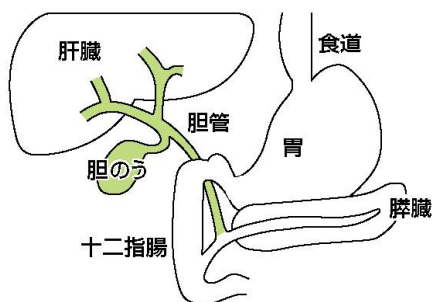
黄疸とは血液中のビリルビンという成分が増加して、皮膚が黄色くなる状態です。黄疸には肝臓の機能が低下することによる肝実質性黄疸、血液中の赤血球が破壊（溶血）されることによる溶血性黄疸、胆管が閉塞することにより胆汁が排出できなくなる閉塞性黄疸などがあります。

#### Q3. 閉塞性黄疸の原因としてはどのようなものがありますか？

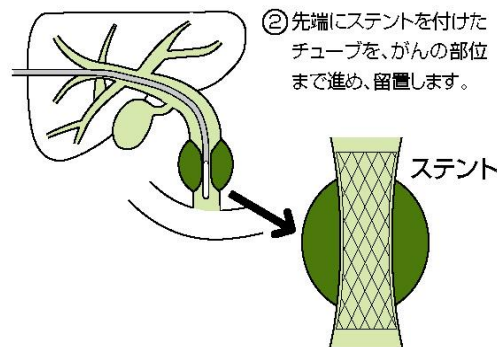
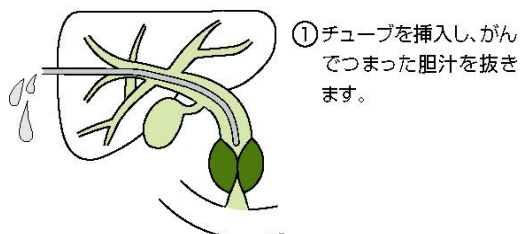
胆のう内の石が胆管内でつまることによる場合や、胆管の走行する経路にがんができることが原因として考えられます。

#### Q4. がんによる閉塞性黄疸と診断されました。どのような治療がありますか？

がんによる閉塞性黄疸の場合には、その種類や進行度によって治療方針が若干異なります。まず、黄疸を改善するために胆汁を体外に出す処置を行います。これには主に2つの方法、すなわち、体の表面から肝臓を刺す（経皮的）方法と内視鏡を用いて胆管内にチューブを入れる（経内視鏡的）方法があります。その後、可能であれば手術をすすめますが、手術が難しい場合には胆管にステントを留置し、胆汁の十二指腸への排出を確保します（図参照）。ステントだけではがんの進行を止めることができませんので、抗がん剤や放射線などの治療を行うことがあります。



### 胆管ステントの留置方法



**Q5. 胆管ステントとはどのようなものですか？**

胆管ステントは、胆管の閉塞を開通させることを目的とする網目状の構造をした金属製の筒、または樹脂製チューブです。このステントを留置することにより正常に胆汁が流れる経路を確保します。そうすることにより胆管内から胆汁を体の外に出すためのチューブを外すことができます。

**Q6 胆管ステントの留置方法は？**

腹部の表面から（経皮的）留置する方法と内視鏡を用いて留置する方法があります。どちらを選択するかは黄疸を改善するためのチューブの入れ方や病態、施設などによって異なります。手技は痛み止めをしてX線の出る部屋（透視室）で行います。胆管に挿入されていたチューブを利用してステントを目的の位置まで運びます。ステントは細く折りたたまれた状態で体内に挿入されます。閉塞部位へ適切に配置できた段階でステントを開きます。ステントはその位置に確実にとどまり一定期間開存性を維持するように設計されています。

**Q7. 留置にはどのくらい時間がかかりますか？**

一般的には1～2時間で行われますが、留置部位・ステントの本数・留置経路などによっても若干異なってきます。具体的には留置前に担当の先生にお聞きください。

**Q8. 胆汁を抜く処置やステント留置による合併症、トラブルはないのですか？**

出血、膵炎（膵臓の炎症）、疼痛、感染などが起こることはあります。予測や回避が困難なトラブルもありますが、一般には経験の多い医師が行えばトラブルは少ない傾向にあります。

**Q9. 胆管ステント留置後に気を付けることはありますか？**

留置後は一般的な生活を送ることが可能になります。ときに、がんの増大などによりステントがつまったり、それに伴う感染などが問題となってきます。その状態によってはステントを再留置することにより改善する場合があります。そのような兆候がないか、がんとステントの状態を確認する目的で定期的な通院による採血やCTやエコーなどの画像検査を行うことが大切です。

**Q10. 保険はききますか？費用負担はどれくらいかかりますか？**

健康保険が適応になります。実際の費用負担は施設にご質問ください。

日本IVR学会 広報・渉外委員会

日本IVR学会 事務局

〒355-0063

埼玉県東松山市元宿1-18-4

<http://www.jsir.or.jp/>